

看護あきた

Nursing Akita

Vol. 104

平成23年度 1号

- 1 会長あいさつ
- 2 平成23年度 秋田県看護協会
通常総会・特別講演レポート
- 4 平成23年度 新理事・監事紹介
- 6 平成22年度 理事・監事・地区支部長
常任・特別委員一覧

- 7 シリーズ認定看護師 こまち紹介
- 8 災害支援ナース活動報告
- 10 「看護の日」事業報告
- 11 新シリーズ看護部長が看護の思いを語る
- 13 事務局からのお知らせ

秋田県看護協会会報

平成23年度会員数
(7月1日現在)

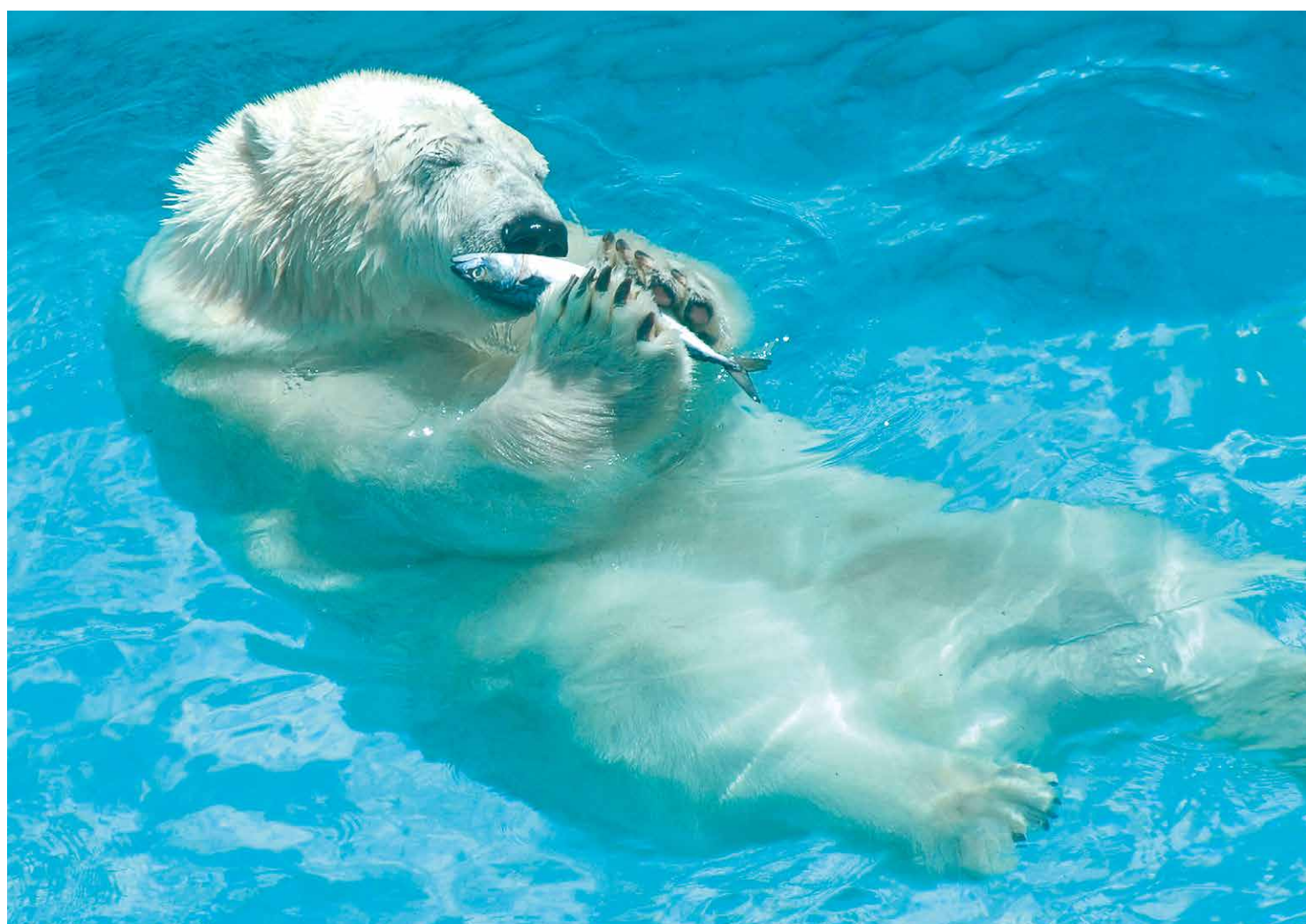
6,699名

保健師 276名

助産師 309名

看護師 5,787名

准看護師 327名



豪太のお嫁入りしたクルマミです。まだ慣れないけどよろしく。

[写真提供:男鹿水族館GAO]





目次

Contents

1 会長あいさつ (社) 秋田県看護協会 会長 鳥 トキエ



2

平成 23 年度 秋田県看護協会 通常総会報告

4 平成 23 年度 新理事・監事紹介

6 平成 23 年度 理事・監事・地区支部長
常任・特別委員一覧

7

シリーズ認定看護師 わたしのまちの看護師さん 「こまち」紹介



8 東日本大震災 災害支援ナース活動報告



10 「看護の日」 事業報告

12 新シリーズ 看護部長が看護の思いを語る



14 会員から協会へなんでもメッセージ

14 事務局からのお知らせ



会長あいさつ

秋田県看護協会会長 烏 トキエ

新緑の美しい季節となり、各職場では、新人を迎え、忙しい中にも活気に満ちた新年度をお越しのことと存じます。

はじめに、3月11日の東日本大震災で被災された地域の皆様に心からお見舞いを申し上げます。秋田県では、1月の大豪雪に引き続き、震度5強の地震に見舞われ、本当に大変な数カ月だったと思います。看護職の皆様には、停電や断水、ガソリン不足の中で、職員一丸となって患者さんの安全と施設の機能維持に奔走され、事故なく経過できましたことに心より敬意を表します。また、本会では日本看護協会と協力して岩手県と宮城県に災害支援ナースを派遣いたしました。災害支援ナースとして活動いただいた40名の皆様、そして派遣いただいた施設の皆様には、支援活動とご協力に深く感謝申し上げます。被災地の復興には長期間を要する模様です。県協会では、今後とも中長期的な支援を続けてまいる所存です。

さて、22年度は、国の新人看護職員研修が実施され、秋田県では8割の新人が研修を受けました。また、県の施策により、認定看護師派遣施設へ50万円の助成が行われるという画期的な事業が実施されました。23年度は、国の新人助産師・保健師の研修が始まります。さらに県医務薬事課では多様な勤務形態導入支援事業が予算化され、日本看護協会の目指す教育体制やワークライフバランスの推進に道筋ができました。皆様には、せっかく獲得できた認定看護師助成金や、教育などの予算を有効的に活用してくださるようお願いいたします。

6月6日から8日の3日間、パシフィコ横浜で23年度日本看護協会通常総会が開催されました。2日目には、近藤長子前保健師職能委員長と烏が会長表彰を受けました。議案については、事業計画に東日本大震災の被災者支援が追加となりましたが、結果的にはすべての議案が承認されました。審議においては、代議員750名と

一般会員から賛否双方の有効的で活発な意見交換があり、議案内容が深められ、新公益社団法人設立総会としてふさわしいスタートを切ることができました。23年度は、特定看護師（仮称）の教育や、24年度の診療報酬・介護報酬同時改定、東日本大震災の復旧・復興への取り組みが最重要課題となります。

秋田県看護協会では、6月17日に23年度総会を開催いたしました。お陰さまで22年度の事業と決算、23年度の提出議案については、すべて承認・決定されました。2号議案の定款と3号議案の定款細則については、多数の賛成が得られ、原案通り決定となりました。今後は委員会組織や諸規程など新公益社団法人の認定必要事項を理事会で審議し、10月の申請、24年4月の認定を目指して参ります。

23年度重点事項としては、①新公益社団法人移行に向けた組織改正・組織強化の推進、②働き続けられる職場環境の整備・推進、③質の高い看護の提供・継続教育の推進、④看護協会に関する積極的広報活動の推進、⑤医療・看護の安全対策及び災害支援の推進、⑥地域連携の推進・訪問看護の充実、⑦県民の健康づくり・次世代育成支援、を掲げ、事業計画に網羅しました。この1年、基本理念を踏まえ、行政や関係諸団体との連携に努め、秋田県民の安全・安心な医療・看護、健康生活の推進に貢献できるよう、誠心誠意努めてまいります。

また、この4月から日本看護協会地区理事に就任しましたので、本会の進むべき方向性について責任を持って対応して参ります。皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、秋田県出身の村松静子様のナイチンゲール賞の受賞、並びに、日本赤十字秋田看護大学修士課程開設をお祝い申し上げますとともに、今後のご活躍とご発展を祈念申し上げます。

平成23年6月18日

平成23年度

秋田県看護協会

通常 総会



●プログラム

開会 9:30
総会成立宣言
物故者への黙とう
会長挨拶
来賓祝辞 秋田県健康福祉部部長
代理秋田県健康福祉部次長 梅井 一彦氏
秋田市長代理秋田市保健所次長 黒丸 惟之氏
来賓紹介 祝電披露
秋田県看護協会会員表彰 78名
受賞者代表謝辞 代表 澁谷 浩子氏
名誉会員の推薦・名誉会員証授与 和田 孝子氏
議長団選出
秋田社会保険病院 小玉真記子
雄勝中央病院 石橋 昭子
秋田大学医学部附属病院 三船 碧
議事録署名人決定
選挙管理委員任命
議場推薦
平成22年度総会議事録朗読
平成23年度スローガン
閉会(14:45)

平成23年度6月通常総会は、342名の出席と5130名の委任状を託され、合計5472名で成立。

●会長あいさつ

平成23年度は重点事項の第一に新公益法人移行に伴う組織改正・組織強化をあげている。新定款(案)・新定款細則(案)が完成し、本日議案として提出することができた。今年10月申請を目指し、来年の4月1日には新公益社団法人に移行できるように努力している。

保助看法が改正になり、長年望んでいた新人看護職員

の研修制度が平成22年に始まった。秋田県では80%の実施率だった。これに加え、新人助産師・新人保健師の研修も今年から始まっており、十分活用してもらいたい。

看護協会では平成24年度の診療報酬・介護報酬同時改定に向けた取り組みを行っている。今回の災害を機に、災害支援ナースの体制も強めていく。

●秋田県看護協会会員表彰受賞代表

澁谷 浩子謝辞

変化ある激しい社会の中、チーム医療の中心的役割を意識しながら倫理的規範に従い自律性のある職業人として社会に貢献できるよう努めてまいりたい。

●名誉会員受賞 和田 孝子謝辞

38年間保健師として活動する傍ら、協会の仕事に携わってきた。先輩の方々の指導と同僚の方々の励ましと協力、後輩の方々が私を支えてくださった。皆さんの輪の中で皆さんに支えられて38年間やってこれた。感謝の気持ちでいっぱいである。進歩発展には課題が生じてくるが、一人の力ではどうにもならない事でも、組織の力・団結の力で協力していけば看護界も将来に向かって発展していけるものと思う。

●提出議題

第1号議案 名誉会員の推薦(案)

第2～3号議案秋田県看護協会新定款(案)・新定款細則(案)

三浦第二副会長より「秋田県看護協会新定款(案)は、公益社団法人に向けての基本理念、骨子を踏まえ、公益法人認定の基準に合致するように検討を行ってきた」と説明があり、新定款(案)第1章から第9章まで、主に現行定款と変わる部分を中心に説明があった。

第4～5号議案 公益社団法人移行に係わる役員報酬、会員及び入会金に関する規程の設定(案)

第6号議案 平成23年度スローガン(案)

第7～9号議案 平成23年度事業計画(案)・予算案等

●第2～3号議案への質疑

第3章アの部分において、正会員であるために「秋田県内に勤務し、又は居住する」が「看護職員の資格を有する者」の前に書かれているが現行のように「看護職の資格を有する者」が「秋田県内に勤務し、又は居住する」の前に書かれたほうがよいのでないか

回答:細かい文言に関する修正は、今後理事会にかけて検討し、差し替え等で対応していきたい。

●第7号議案への質疑

質問:就業環境改善相談窓口の専任者の配置とあるが誰が専任するのか、勤務環境改善アドバイザーは専門の方がくるのか、この人材の研修などは計画されているのかおしえてほしい。

回答:専任者は看護協会職員の中から決めるが、この人材のトレーニング研修は今のところ計画していないが今後考えていく。アドバイザーは外から頼む事になっている。年8回程度アドバイザーを派遣し、勤務環境改善を図ることになる。

潜在看護師の掘り起こしは低率であり、離職防止に力を入れることになった。

(意見1)

公益社団法人に変わる事は大変なことでもあるが、変わるチャンスでもある。これを機により看護協会が心のよりどころであり続け、会員の声が届くような組織であってほしい。

(意見2)

介護福祉施設及び訪問看護事業所で働く看護職への支援において、実際の支援内容を入れてほしい。

施設では看護と介護の振り分けがはっきりせず、な



かなか理解が得られない。施設や訪問看護事業への支援をお願いしたい。

回答:日本看護協会では看護師職能委員会が病院で働く看護師、施設で働く看護師の二本立てで行くことが決定された。施設で働く看護師について実態が把握できていないので、調査を行うことを計画した。

公益社団法人化に向けて、例年以上に議案が多く総会は長時間にわたったが、議案はすべて満場一致あるいは賛成多数で可決された。

最後に会長からふれあい事業の予算について議案の追加提案があり、議長に許可を得て、審議・採決「災害があったときに義援金として使っているが、災害派遣ナースを派遣するときの予算がなかった。急な災害の時には理事会で話し合いをしながらこの基金を使って災害派遣に対応していきたい。審議をお願いしたい。」

大多数の賛成で会長からの提案は可決され、総会は滞りなく閉会した。

<特別講演>

「看護界をめぐる最近の動きと今後の方向性」

講師:日本看護協会 常任理事 齋藤 訓子氏

内容:

「リーダーたるもの、時代の動向を先に読んで動くこと。物事が決まってからでは時すでに遅い。このような時代の中で看護師は何をすればいいのか。」と投げかけられ、講演開始直後からハッとさせられた。「これから加速する少子・高齢化は看護師の需要と役割に大きく影響する。看護師確保はますます困難になり、やりがいのある職場でないと必要な人員は確保できなくなる。」と話され、大変な時代が間もなくやってくることをグラフで説明をされた。

「今後の療養先・終末を過ごす場所は病院から在宅が多くなる。他職種がチームとなり、自分たちが行ってきたことをきちんと継続できるようにすることが大切である。そのためには入院した時から退院支援・退院調整を始めること。また、自宅に帰った後の療養指導を適時行っていないと、病状が悪化してきてしまう。ぜひ、外来の待ち時間で、こういった方々のケアにあたってもらいたい。」など、今後の日本の厳しい社会情勢や私たちが果たすべき役割を再確認できる講演内容だった。

今、私たちに出来ることは何かを先見の明でしっかりと見つめ、誰もが安心して住める社会作りに精一杯貢献していきたいと思います。

(文責:広報出版委員 中川 久美子)

平成23年度 新〔理事〕



第二副会長

由利本荘市
三浦 令子

このたび、第二副会長の任を引き続き担うことになりました。秋田県看護協会は秋田県民の健康な生活の実現に寄与する職能団体として、今年度は公益社団法人認定申請を行う重要な年になります。皆様のご支援よろしくお願いいたします。



書記理事

秋田市
佐藤 光子

このたび書記理事として二期目を務めさせていただくことになりました。

今期は新公益社団法人へ、スムーズに移行させる最終段階になります。公益性を重視し、看護協会員はもちろん会員以外の方々にも開かれた協会として今まで以上に頼りにされる団体になることをめざして、微力ながら努力したいと思います。多くの方々の率直なご意見、ご助言をいただければありがたいと思います。



教育理事

秋田県看護協会
宇佐美 正子

この度、教育理事2期目の任を務めさせていただきます。

平成23年度重点事項に掲げられている事業「質の高い看護の提供・継続教育の推進」の充実を目指し努力してまいります。皆様のご協力ご支援をよろしくお願いいたします。



保健師職能理事

潟上市天王保健センター
太田 敦子

保健師職能理事を務めさせていただきます。理事は初めてですので、会長はじめ諸先輩の御指導を仰ぎながら努力していきたいと思います。また保健師職能理事として現場の保健師たちがさらに能力を高め、創造的な活動が続けられるよう微力を尽くしていきます。



助産師職能理事

秋田組合総合病院
荒川 きよみ

もう一期、助産師職能委員長を引き受けることになりました。また、新しい公益法人制度での職務と権限に責務の大きさも感じております。

現在、全国的にも院内助産・助産師外来開設などに向けた動きが活発となり職能としても果たすべき役割や課題も増え、会員の皆様のご協力を得ながら一つ一つ解決できるように努力したいと思っています。よろしくお願いいたします。

・ 監事] 紹介



鹿角地区理事

かづの厚生病院
川又 留以子

このたび鹿角地区理事を再び務めさせて頂くことになりました。

新公益社団法人化に向け、組織のあり方が大きく変化し、理事の重責を痛感しております。地区支部と協会の連携を密にし、今年度のスローガンである、「知恵と力を結集して、安心・安全な医療・看護をしよう」を目指し、県民の健康福祉の向上に努め、又会員の増を図り、協会活動を強化していきたいと思っています。

会員の皆様からの御協力を得ながら、重大な任務を果たすよう頑張っていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



大館地区理事

大館市立総合病院
菅原 留美子

このたび、大館地区支部から理事として務めさせて頂くことになりました。

前年度まで、地区支部長・公益法人準備委員会を担当させて頂き、協会の基盤となることがらを学ばせていただきました。理事という役割と責務の大きさに不安を覚えましたが、新しい公益法人として活動展開を始める協会本部と地区支部とのパイプ役としてお役に立ちたいと思います。

皆様のご指導ご協力をいただきながら、精一杯努めさせていただきますのでよろしくお願い致します。



北秋田地区理事

北秋田市
松橋 廣巳

このたび北秋田地区理事に選任いただきました。医療再編成の流れの中で医療現場も地域も大きく変化してきています。社会経済福祉委員の任期を終えたところではありますが、この間に学び得たことを今後の任務に活かしていきたいと思っています。ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。



能代・山本地区理事

能代山本医師会病院
菊地 由紀子

この度、能代山本地区理事を務めさせて頂くことになりました。

私にとって大役であり、責任の重さと仕事が全うできるかとても不安です。

いままで一会員として2年余り地区の協会活動に関わってきましたが知識や経験もまだまだ未熟です。

これから諸先輩の方々のご指導を受けながら勉強し、県と地区との連携を図り、協会活動の向上に努力し、頑張っていきたいと思っています。

どうぞよろしくお願い致します。



秋田臨海地区理事

県立医療療育センター
寺門 美佐子

この度、秋田臨海地区理事を務めさせて頂くことになりました。理事の役割と責務に不安ではありますが、地区の監事としての経験を活かしながら、皆さんの協力とご指導のもと取り組んでいきたいと思っています。また、協会の活動を通して私のモットーである“いつも明るく 元気に 前向きに”を胸に、地区と協会のパイプ役として役割を遂行できるよう努力していきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願い致します。



監事

株式会社秋田中央ビルディング
伊藤 安徳

私は、定年まで銀行に勤め退職後は一般企業の経理担当を主な仕事としてきました。

今般、全く畑違いの世界から監事として組織に加わることになりました。これまで経験してきたことを基盤として、皆様のご指導を賜りながら「新しい公益法人制度」や「公益法人会計基準」等を勉強し、微力ではありますが職責を果たしたいと思っています。どうぞ宜しくお願い致します。

役員名簿

●印:委員長

理事・監事

役職名	氏 名	職種	所属施設名
会 長	烏 トキエ	看	秋田県看護協会
第一副会長	佐藤 ヨシ	助	秋田市
第二副会長	三浦 令子	保	由利本荘市
常務理事	佐藤 潤子	保	秋田県看護協会
書 記	佐藤 光子	看	秋田市
会 計	吹谷由美子	看	市立秋田総合病院
教 育	宇佐美正子	看	秋田県看護協会
保健師職能	太田 敦子	保	潟上市天王保健センター
助産師職能	荒川きよみ	助	秋田組合総合病院
看護師職能	三浦ノリ子	看	潟上市
鹿 角	川又留以子	看	かつの厚生病院
大 館	菅原留美子	看	大館市立総合病院
北 秋 田	松橋 廣巳	看	北秋田市
能代・山本	菊地由紀子	看	能代山本医師会病院
秋田臨海	寺門美佐子	看	県立医療療育センター
由利本荘にかほ	池田 淑子	看	由利本荘医師会病院
大仙・仙北	武藤 孝子	看	仙北組合総合病院
横 手	藤井 洋子	看	市立横手病院
湯沢・雄勝	山内 純子	看	雄勝中央病院
全 区	佐々木吉明	准	花園病院
監 事	佐藤 順子	看	秋田組合総合病院
監 事	井上 栄	看	秋田県福祉相談センター
監 事	伊藤 安徳		株式会社秋田中央ビルディング

地区支部長

地区支部名	氏 名	施設名
鹿 角	戸館 桂子	かつの厚生病院
大 館	田村 チエ子	秋田労災病院
北 秋 田	中嶋 美枝子	北秋田市民病院
能代・山本	工藤 あつ子	能代山本医師会病院
秋 田 臨 海	大石 静香	社会医療法人 明和会 中通総合病院
由利本荘にかほ	佐々木美恵子	佐藤病院
大仙・仙北	安藤 恵美子	市立角館総合病院
横 手	小西 美喜子	平鹿総合病院
湯沢・雄勝	小野 順子	町立羽後病院

推薦委員会

●印:委員長

委 員 名	職種	所 属 施 設 名
●難波 はつ子	看	秋田緑ヶ丘病院
高野 ひとみ	看	かつの厚生病院
遠藤 まゆみ	看	市立大森病院
工藤 敬子	看	大館市立総合病院
池田 富美子	看	由利組合総合病院
丹 巻子	看	町立羽後病院

常任・特別委員

●印:委員長

委員会名	委 員 名	職種	所 属 施 設 名
保 健 師 職 能 委 員 会	●太田 敦子	保	潟上市天王保健センター
	高橋 久美子	保	秋田市保健所 保健予防課
	加賀美 忍	保	秋田組合総合病院
	小松 京子	保	大仙市
	上野 静子	保	小坂町保健センター
	正木 みえ子	保	由利本荘市本荘保健センター
助 産 師 職 能 委 員 会	●荒川 きよみ	助	秋田組合総合病院
	鎌田 静	助	大館市立総合病院
	工藤 佐智子	助	山本組合総合病院
	佐藤 明美	助	由利組合総合病院
	石垣 智子	助	市立秋田総合病院
	齋藤 久美子	助	中通総合病院
看 護 師 職 能 委 員 会	●三浦 ノリ子	看	潟上市
	佐藤 園子	看	北秋田市民病院
	鈴木 美佳子	看	仙北組合総合病院
	佐藤 多恵子	准	本荘第一病院

委員会名	委 員 名	職種	所 属 施 設 名
看 護 師 職 能 委 員 会	高橋 美智	看	市立大森病院
	高橋 芳枝	看	特別養護老人ホーム真木苑
	工藤 文子	看	秋田県立脳血管研究センター
	宮城 正子	看	秋田組合総合病院
社会経済福祉委 員 会	●小野 寿美子	看	秋田大学医学部附属病院
	佐藤 信子	看	中通総合病院
	野村 優子	看	山本組合総合病院
	石川 みゆき	看	本荘第一病院
広 報 出 版 委 員 会	北嶋 洋子	看	北秋田市民病院
	●佐々木 順子	看	山本組合総合病院
	保坂 あい	看	外旭川病院
	五十嵐 紅子	保	市立秋田総合病院
秋 田 県 看 護 学 会 委 員 会	中屋 郁	看	中通リハビリテーション病院
	中川 久美子	看	秋田組合総合病院
	猿田 真紀子	看	秋田県立脳血管研究センター
	●工藤 由紀子	看	秋田大学大学院医学系研究科保健学科専攻
	齊藤 清子	助	秋田県立衛生看護学院
	船木 康子	看	秋田大学医学部附属病院
	佐藤 幸代	看	秋田赤十字病院
	佐々木 由香	看	秋田市医師会立秋田看護学校
	富野 江里子	看	外旭川病院
	嶋田 純子	看	山本組合総合病院
	佐藤 友子	看	雄勝中央病院
	●下田 恵美子	看	秋田市
看 護 制 度 委 員 会	佐々木久美子	看	北秋田市民病院
	佐々木みよ子	看	杉山病院
	佐藤 千夜子	看	平鹿総合病院
	佐藤 さとみ	看	市立横手病院
教 育 委 員 会	●大高 恵美	看	日本赤十字秋田看護大学
	加藤 美由紀	看	秋田社会保険病院
	田口 貴久子	保	男鹿市保健センター
	加賀谷 晶子	看	秋田大学医学部附属病院
	小野 まゆみ	看	由利組合総合病院
	戸嶋 京子	看	平鹿総合病院
	伊藤 千春	看	秋田赤十字病院
	石田 和子	看	大館市立総合病院
	佐藤 弘子	助	「ひろっこ」母乳と育児の相談室
	門間 真由美	看	市立秋田総合病院
	佐々木由美子	助	JA秋田厚生連医療従事者確保対策室
	佐々木美和子	看	秋田県立脳血管研究センター
「看 護 の 日」委 員 会	松岡 淳子	看	中通総合病院
	藤田 美穂子	看	仙北組合総合病院
	佐藤 千賀子	保	秋田県立衛生看護学院
	●茂木 美和子	看	秋田県立脳血管研究センター
	鶴田 こずえ	看	市立角館総合病院
	進藤 智加子	看	秋田組合総合病院
	豊口 明子	看	大館市立扇田病院
	吉川 智子	看	平鹿総合病院
	●白川 秀子	看	秋田大学医学部附属病院
	佐々木理恵子	看	日本赤十字秋田看護大学
	佐藤 田鶴子	看	由利組合総合病院
	猿田 久仁子	看	秋田赤十字病院
認 定 看 護 管 理 者 教 育 運 営 委 員 会	庄子 公子	看	市立秋田総合病院
	工藤 一子	助	秋田県看護協会
	●木嶋 しげ子	看	由利組合総合病院
	木村 志保子	看	鹿角組合総合病院
【特別委員会】災 害 看 護 委 員 会	越後谷 和美	看	秋田組合総合病院
	小坂 さおり	看	男鹿みなと市民病院
	熊谷 浩子	看	県立リハビリテーション・精神医療センター
	●三浦 真由美	看	市立秋田総合病院
【特別委員会】医 療 ・ 看 護 安 全 委 員 会	森 睦子	看	能代山本医師会病院
	石井 直子	看	秋田赤十字病院
	石川 桂美	看	秋田緑ヶ丘病院
	田口 さつき	看	外旭川病院
【特別委員会】訪 問 看 護 推 進 委 員 会	高橋 美紀子	看	仙北組合総合病院
	●石川 セツ子	看	訪問看護ステーションあきた
	柴田 貴子	看	大館市立扇田病院
	鎌田 さと子	看	秋田赤十字病院
	鎌田 百合子	看	中通訪問看護ステーション
	真崎 祥子	看	市立角館総合病院
	金 美穂子	看	ナースステーションふきのとう

わたしのまちの看護師さん

シリーズ 認定看護師

「こまち」紹介

毎回、看護の専門性をたゆみなく探求し続ける
認定看護師さんを紹介します。

清水元子さん

こまち File No.11

秋田社会保険病院
認定看護分野／皮膚・排泄ケア

今取り組んでいること

はじめまして。秋田社会保険病院の清水元子と申します。私は2009年に皮膚・排泄ケア認定看護師の資格を取得しました。以前は病棟勤務と兼務で、認定分野の活動を行っていましたが、今年の春から専従となり褥瘡対策管理室で勤務しています。専従になって今一番感じていることは褥瘡の保有者は入院患者だけでなく、在宅や施設に入所中の方も以外に多く外来受診の際に褥瘡を見受ける機会が多いことです。先日、当院の訪問看護師とともに在宅の患者さんの褥瘡ケアに関わることができました。在宅では家族の方の協力がとても重要で、ケアの必要性を理解した上で適切に実施していただけるように指導をしています。しかし、実際には病院のようにはないのが現実で、在宅でいかに患

者さんが安楽に過ごせるのか、その対策方法を一緒に工夫して思案しているところです。

皆と一緒にがんばりたいと 思っていること

褥瘡委員をはじめとしたリンクナースの育成に取り組んでいます。当院の褥瘡リンクナースは徐々に知識を身につけ、各病棟で活躍しています。私が病棟に訪問した際には自分たちのケア方法が正しいかどうかの質問が飛びかってくるほどに、皆の成長がみられ、とてもうれしく思っています。これからも、褥瘡リンクナースとともに病院のみでなく、退院された方を含めた褥瘡予防および治療が安全に的確に行えるように一緒に頑張っていきたいと思っています。委員会の方、今後ともよろしくお願いします。



安藤松吾さん

こまち File No.12

男鹿みたと市民病院 内科外来主任看護師
認定看護分野／感染管理

今取り組んでいること

私が感染対策の中で一番重要だと考えることは、「患者さんから病気をもらわない、患者さんに病気をうつさない」ということです。そのために標準予防策をすべての職員が正しく理解し実践できるように取り組んでいます。感染のことであれば、病棟会議や外来会議等どこにでも出向いて話をし、できるだけ感染管理認定看護師をアピールするようにしています。また、結核患者の発生が時々見られるため、数種類のN95マスクを用意しフィットテストを行い見直しを行っています。やることは沢山ありますが、感染対策の中で一番重要なことは、今自施設のレベルがどの程度なのかもそうですが、今どういうことに取り組んでいるかが重要だと考え、日々仲間と共に一生懸命頑張っています。

皆と一緒にがんばりたいと 思っていること

感染対策は人が行うものであるため個人の意識が変わらなければ、変える事は困難です。患者さんが安心して利用できる病院にするため、感染対策に協力してくれる仲間を増やし、仲間と一緒に感染対策の質の向上のため頑張っていきたいと思います。



東日本大震災被災地への

災害支援 ナース 活動実績

平成23年3月11日に発生した東日本大震災に際し、秋田県看護協会は日本看護協会と連携して、災害支援ナースの派遣を行った。

3月21日に第1班を派遣、以来13班40名を派遣し、岩手県北上市、山田町、釜石市の病院や避難所、宮城県石巻市の福祉避難所において支援活動を行った。災害支援ナースは被災者の健康保持と現地の医療従事者のサポートを行うことを目的とし、3泊4日、自己完結(寝袋、食糧、水持参)という条件の下、専門職として災害看護という貴重な体験を重ね無事帰還した。

現地で活躍された支援ナースの皆様、また、ご多忙の中派遣してくださった施設の皆様に心からお礼申し上げます。



班	派遣期間	派遣人数	派遣先	派遣協力施設
第1班	平成23年3月21日 ～3月24日	5名	岩手県立中部病院(北上市)	県立医療療育センター・大館市立総合病院・扇田病院・真昼荘・市立秋田総合病院
第2班	平成23年3月28日 ～3月31日	3名	岩手県立中部病院(北上市)	かづの厚生病院・平鹿総合病院
第3班	平成23年3月29日 ～4月1日	2名	岩手県立中部病院(北上市)	大館市立扇田病院
第4班	平成23年3月31日 ～4月3日	3名	山田地区避難所(山田南小学校・平安荘)	秋田県看護協会
第5班	平成23年4月3日 ～4月6日	5名	山田地区避難所(山田南小学校・平安荘)	市立秋田総合病院・秋田社会保険病院・在宅会員・秋田回生会病院
第6班	平成23年4月7日 ～4月10日	2名	山田地区避難所(平安荘)	大湯リハビリ温泉病院
第7班	平成23年4月11日 ～4月14日	3名	釜石市避難所(旧釜石商業高校)	在宅会員・由利組合総合病院・能代山本医師会病院
第8班	平成23年4月13日 ～4月16日	4名	山田地区避難所(山田南小学校・平安荘)	大曲中通病院・市立秋田総合病院・由利組合総合病院・山本組合総合病院
第9班	平成23年4月15日 ～4月18日	2名	山田地区避難所(平安荘)	在宅会員・山本組合総合病院
第10班	平成23年4月18日 ～4月21日	2名	山田地区避難所(平安荘)	L L 財団・秋田組合総合病院
第11班	平成23年4月24日 ～4月27日	2名	釜石市避難所(旧釜石商業高校)	由利組合総合病院
第12班	平成23年4月26日 ～4月29日	3名	山田地区避難所(平安荘)	大曲中通病院・在宅会員・市立秋田総合病院
第13班	平成23年5月14日 ～5月17日	4名	宮城県石巻市福祉避難所(桃生町農業者トレーニングセンター)	山本組合総合病院・平鹿総合病院・秋田労災病院・大曲中通病院

災害支援 ナース 活動報告



岩手県立中部病院へ派遣された災害支援ナース

- 中部病院から沿岸部の被害の多かった病院へ支援ナースが派遣されており、その分の補充として、中部病院へ派遣された。被災された患者さんと話をすると、様々な悩みや不安を抱えながら入院生活を送っており、退院後の生活に向けた支援も非常に大切であると感じた。
- 整形病棟で、津波の被災者のシャワー浴介助を行った。皆様から海水の塩、砂、油の苦痛が聞かれ、身体には内出血痕や創傷がみられ被害を物語っていた。
- 被災患者(76歳)に貴重な話を聞かせていただくことができた。わかめの養殖を家族で営んでおり、津波の際にはお嫁さんと手を取り合って逃げた。龍のように音を立て渦巻く黒い波にのまれ自分だけが生き残った。「自分が死ねばよかった」夫も息子も負傷し別々に入院して寂しい。余震も敏感に感ずるし津波の夢も見ると、涙を流しながら話す姿に、ただただ傾聴する思いである。

山田町平安荘に派遣された災害支援ナース

- 避難所での生活が困難な介護度の高い方とその家族が避難所として活用している。
無理にコミュニケーションを取ろうとせず、日々の活動の中から会話を少しずつ増やし信頼関係を築くよう努めた。今回の派遣で本来の看護を見つめ直し、コミュニケーションの重要性をととても強く思い知ることができた。
- 避難者の方々と密にコミュニケーションをとることができ、心の部分に触れる機会をもつことができた。
地震で停電のため、エアマットが使用できず、マットレス5枚確保し家族の協力のもとで交換できた。

山田南小学校に派遣された災害支援ナース

- 体育館で生活している方の日々の健康チェックを行った。震災後より不眠、ストレスで血圧上昇、便秘等の健康問題が多かった。発熱している人も多く、集団感染予防、症状の重症化予防として必要な活動である。
- この町の若い男性保健師は、ひとりで他県からの支援チームや住民との間に入って昼夜なく明るく元気にひたすら業務を遂行していて、その謙虚で前向きな姿に敬服した。静岡県の災害支援ナースと共に、「私たちに何ができるのか」を考え、彼が2日間連続で休息できるようにすることを伝えて行動した。
- 今回の活動では、避難所だけでなく自宅で生活している人々にも目を向けて行動した。一人暮らしをしている高齢者の健康状態や精神面の状態を把握し、必要があれば地元保健師へ報告し、継続して見守っていきようにしていった。

釜石商業高校に派遣された災害支援ナース

- 避難所に入っている人は、ADL自立しており介助を要する方はいなかった。「今は状況も落ち着き、少しずつ前向きに考えられるようになった。」と話されていたのが印象的だった。
- 慰問のコンサートで「ふるさと」を、歌手の方と避難者の方が一緒に皆が泣きながら歌っていたことは本当に忘れられないと思う。一日も早く被災地が復興することを、心から祈ると共に、この様な形での支援をこれからも自分なりに続けたいと思う。

石巻桃生町農業トレーニングセンターへ派遣された災害支援ナース

- 石巻の看護師は職場が津波で流され、この避難所の業務となったこと、自宅も破損し風呂に入れないこと、身内が見つからない等つらさを抱えて業務していました。自分の恵まれている環境を改めて実感し苦しくなりました。ひたすら話を聞くことしかできませんでした。宮城のスタッフの方から「このご恩は一生忘れません」とあたたかい言葉をいただき恐縮しました。また、歩ける入所者の方々が外でずっと手を振って下さり涙が止まりませんでした。本当に貴重な体験をさせていただきました。



秋田県民と集う

実施報告

フェア

看護の日

2011 5.14(土)

【会場】秋田拠点センターアルヴェ1F
(きらめき広場)

Events

なんでも健康相談

10:00～14:30

血圧・骨密度・体脂肪測定

薬・栄養・メタボリックシンドローム相談

口腔衛生・乳がん自己検診

お酒との付き合い方・女性の悩み相談

ちびっこナース撮影

10:00～14:30

マッキーコーナー

10:30～13:30

家庭看護実演

11:30～12:30

AED実演

1回目／11:00～11:30 2回目／13:00～13:30

聖霊高校ハンドベル演奏会

13:45～14:15



今年は、被災地へのエールを掲げ看護の心をアピールしました！



今年も大勢のちびっ子達が
来てくれました！
秋田の宝、希望ですね♥



その希望っ子たちに夢と創造を与えるマッキーさん！
ありがとうございます！



口腔衛生相談、2年目もご協力いただきました。
歯の大事さを改めて知ります。
歯、大事にしましょう。



2年目となる
「家庭看護コーナー」
おむつのあて方、なるほど納得
です。



AED実演コーナー



健康相談コーナー。
この機会に色々聞いて
みて下さい。



秋田県栄養士会コー
ナー
食の相談はお任せく
ださい！
食べる事は生きること
です。



日精看コーナー、2年目もご協力い
ただきました。お酒との付き合い方を相
談してみましょう。



この日を待ち望んでいる方々が沢山いらっしゃいます。



毎年ご協力いただいている秋田県薬剤師会
コーナーです。薬の正しい知識を教えてください
ましょう。



乳がん自己検診コーナー。触って確かめて下さい。



今年は聖霊高校の学生さんたちにすてきな演奏をプレゼントしていただきました。
ご協力に感謝いたします！

看護部長が看護の思いを語る

組織に対する思い



No.
1

地方独立行政法人 秋田県立病院機構
秋田県立リハビリテーション・精神医療センター
看護部長

安田 茂子さん



当センターは平成9年に秋田県のリハビリテーション・精神医療の中核病院として開設され、病床数300床で神経・精神科、認知症、リハビリテーション科に特化した専門病院です。病院・看護理念に基づき、それぞれの分野での専門性を発揮することで患者さんの障害受容過程に関わり、その人らしさを失わない生活が出来るよう支援をしていく役割を担っています。

独立行政法人に移行し今年で3年目を迎え、「法人化になって『何が変わるか』ではなく『どう変えていくか』という職員の意識改革が起これば、改善に向かうことは確かである」と、理事長より訓辞を受けました。看護部ではここ数

年、職員が自分の可能性を見出すために専門資格の取得に挑んでおり、看護学士、フォーカスチャートング認定指導士(県内に2名という希少な資格)、認知症ケア専門士、認知症ケア上級専門士、呼吸療法認定士などが誕生しています。また「この学会で発表したい」と、意志を明確にして看護研究に挑む職員が増えており、昨年度は院外講師の指導を仰ぎ8題の演題が採択され院外発表することができました。今年度も数名が専門資格取得にエントリーし、各部署では院内看護研究計画書作成に取り組んでおり、個々の専門性を高めようとする意識が根付いてきている印象を受けています。昨年看護部長の任についたとき、職員個々のニーズを満たすための環境調整が私の課題と考え取り組んできました。現在認定看護師の資格取得支援などセンターとしてのバックアップ体制も整いつつあります。ひとり一人の看護職員が目標を持っていきいきと働くことが、組織の成長に繋がり、結果的には患者さんの満足に繋がれると確信して、専門性を高めようとする職員の意識向上のため、更に環境の調整を強化していきたいと考えます。





No. 2 雄勝中央病院
看護部長

佐々木 英子さん

雄勝中央病院は秋田県最南に位置し湯沢・雄勝地区の二次救急を扱う地域の拠点病院で、18の診療科を持ち入院病床380床(68床休床中)の中規模病院です。

平成17年8月に現在の場所に新築移転してきました。高台にある病院からは市内が一望でき療養環境は最高の場所です。

私も平成19年4月雄勝中央病院への転勤を機に湯沢の方々にお世話になっていますが、どんな人でも温かく受け入れてくれる懐の深さがあり気性もおだやかで「小野小町」の出身地でもあり奥ゆかしいところを秘めているように思えます。

雄勝中央病院はJ Aグループ病院の一つですが、特に優れているところは地域の方々の協力を得られている施設であることです。

救急医療も地元医師会の医師たちが応援してくれていますし、婦人会やサークルの方々から化学療法の患者様へとタオルキャップを届けていただいたり、私たちもそれに応え、健康講話の出前や各学校へ性教育を含めた命の大切さを講義したり地域の病院という意識を

持っていただくよう努力しているところです。同時に、看護師を目指す学生の発掘を含め看護の魅力を語る場を多く持つようにインターンシップを随時受け付けし、地元志向の若者に「地域の医療は地元の人々で守ろう」と呼びかけています。成果が出るには数年単位となりますが、都会へ流出する若い人の歯止めにも貢献できればと思います。

現在の医療情勢の一番の問題とされている医師の偏在化。当院も状況は厳しく日々その対応に悩まされています。医師がいない・看護師がいない。どこもかしこも「ないない病」に病んでいる感があります。しかし、「ない」を叫んでも即解決の糸口はどこにもなく負のスパイラルに落ち込んでいくだけのような気がします。こんな時だからこそ看護師のできることを大いに活かす機会と考えます。看護師の社会的地位もナースプラクティショナーはじめ専門・認定看護師の誕生と共に変わりつつあり、従来から行われてきた看護技術も科学的根拠が加わりより確実なものに変化を遂げてきました。それらの看護知識・技術を駆使することで医療現場を大きく変える、看護を評価してもらえる絶好の機会と考えます。その実感が働く看護師に喜びとなる。それぞれの看護力を結集することでできることはたくさんあると思います。看護する喜びは働く者にとっては大きなエネルギーになります。今、働いている我々が看護の喜びを実感し過ごすことで周囲の見る目も変わり、看護師志望者も増えると思います。全ては今働いている私たちが意識を変えることから始めませんか。



今だからこそ看護の力をそして喜びを

INFORMATION

事務局から研修に係るお願い

- ①秋田県総合保健センター内は、7月～9月まで節電計画を実施しております。
研修会場では冷房の設定温度を28℃に変更いたします事から受講なさる際は、体調を崩さぬよう衣類等での温度調節をお願いいたします。
- ②研修会場へのお車でお越しはご遠慮願います。駐車場は近隣の有料駐車場をご利用になるか、公共の交通機関をご利用下さる様お願いいたします。
- ③研修会の受講料(コンビニ振込)の控えは、研修会当日、必ず受付に提示して下さい。
また、印字してあるお名前の下にコード番号が記されておりますが、振込書の控えを紛失した場合でもこのコード番号が解かると照合が素早く出来ます。
ご自分が参加する研修会のコード番号は、手帳にメモする事をお勧めします。

問い合わせは

秋田県看護協会 事業部直通Tel.018-831-8020 Fax.018-831-8023
E-mail; a.kango.kyouiku3@jupiter.ocn.ne.jp

看護協会への

なんでもメッセージ

看護協会へのご意見・ご要望、看護あきたで取り上げてほしい話題・お知らせ等々、なんでも結構です。
ご自由に記入して、FAXで送信してください。

お名前

病院・医院名

TEL

FAX

部署・部門名

社団法人 秋田県看護協会 **FAX.018-835-9522**

今回掲載された文章や写真、個人名・団体名については個人情報保護法の下、他の目的には一切使用いたしません。

編集後記

2011年3月11日に発生した「東日本大震災」から4か月が経ちました。
ご家族やご友人など被災地において未だに安否確認の出来ない方々、被災された方々には心からお見舞い申し上げます。
復興への支援はこれからも続いていくことでしょう。秋田県看護協会から派遣された災害支援ナースの皆様にも感謝と敬意を表します。
また、104号から表紙の趣向を変え、新しい企画を始めました。情報誌として、皆様の身近にあり、時代の流れに即した「看護あきた」を目指してまいります。
ご意見、ご感想など是非お寄せください。(五十嵐紅子 記)

看護あきた Vol.104 平成23年度 1号

Nursing Akita



発行日/平成23年7月20日

発行責任者/(社)秋田県看護協会 会長

発行所/(社)秋田県看護協会 秋田市千秋久保田町6-6 Tel 018-834-0172

印刷所/秋田中央印刷(株) 秋田市新屋豊町6-43 Tel 018-823-7577